

(品目別需給編)

1 小麦

(1)国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2020/21 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

- ・アルゼンチン等で上方修正も、EU 等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

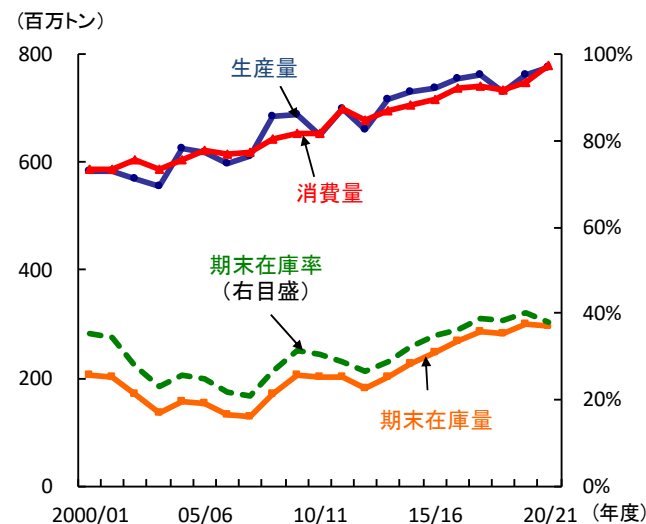
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

- ・EU、米国等で下方修正も、中国等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

- ・ロシア、EU 等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↓



資料：「PS&D」(2021. 4. 9)をもとに農林水産省で作成

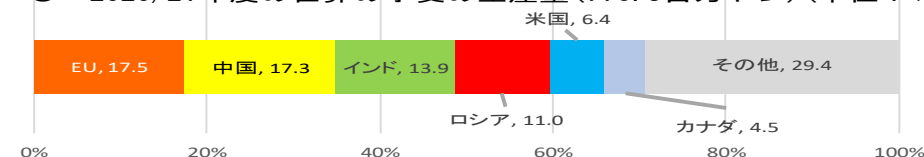
◎世界の小麦需給

(単位：百万トン)

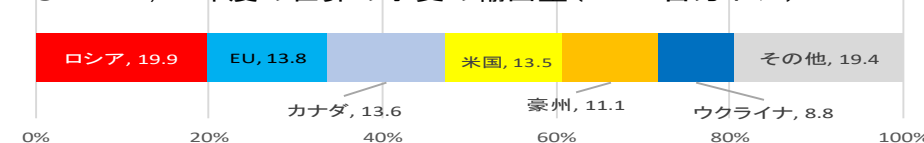
年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	731.0	763.9	776.5	▲ 0.3	1.7
消 費 量	734.8	747.2	781.0	5.1	4.5
うち飼料用	139.3	139.2	156.7	3.7	12.5
輸 出 量	173.7	191.5	198.9	1.2	3.9
輸 入 量	171.3	185.4	191.8	0.3	3.5
期末在庫量	283.4	300.0	295.5	▲ 5.7	▲ 1.5
期末在庫率	38.6%	40.2%	37.8%	▲ 1.0	▲ 2.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (9 April 2021)

○ 2020/21年度の世界の小麦の生産量(776.5百万トン) (単位：%)



○ 2020/21年度の世界の小麦の輸出量(198.9百万トン)



○ 2020/21年度の世界の小麦の輸入量(191.8百万トン)



(2) 国別の小麦の需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】米国農務省(USDA)によれば、2020/21 年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 5.5%減の 49.7 百万トンの見込み。品種別には、冬小麦は 31.9 百万トン、春小麦は 15.9 百万トン、デュラム小麦は 1.9 百万トン。

同「Prospective Planting」(2021.3.31)によれば、2021/22 年度の小麦全体の播種面積は前年度より 4.5%増加し 18.76 百万ヘクタールである。品種別には、冬小麦は同 8.8%増の 13.39 百万ヘクタールで、全小麦に占める割合は前年度(68%)より増加し 71%となった。

また、春小麦(デュラム小麦を含む)は、同 4.7%減の 5.39 百万ヘクタールである。主要産地の平原北部でとうもろこしと大豆への作付転換が進み、春小麦の播種面積が減少したと見られる。

同「Crop Progress」(2021.4.19)によれば、4 月 18 日時点の冬小麦の出穂進捗率(主要生産 18 州)は 10%と、前年度同期の 13%、5 年平均の 14% を下回っている。作柄評価は、良～やや良が前週と変わらず 53%で、前年同期の 57%を下回っている。一方、春小麦の播種進捗率(主要 6 州)は、19%と前年同期の 7%、5 年平均の 12%を上回っている。なお、小麦主産地の大部分では、平年を下回る気温となっている。

【貿易情報・その他】USDA よれば、北半球での冬小麦の生育状況の改善を反映した 3 月の米国農務省需給報告を受け、米国産小麦の輸出価格は低下傾向にあり、特にハード・レッド・ウインター(HRW)は、需要減から前月より 28 ドル/トン低下して 256 ドル/トン(4 月 6 日現在)となった。また、同「Wheat Outlook」(2021.4.13)によれば、2020/21 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、26.8 百万トンの見込み。品種別の輸出量は、ホワイト小麦はアジア、特に中国向け輸出需要が強く増加したものの、HRW は、西半球(南米等)からの需要が低調なため減少した。

2021 年 3 月の輸出先国は、中国(14.9%)、メキシコ(13.4%)、フィリピン(12.9%)の順。

小麦－米国(冬小麦が全体の 7 割、春小麦は 3 割)

(単位：百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	51.3	52.6	49.7	-	▲ 5.5
消費量	30.0	30.6	30.7	▲ 0.7	0.4
うち飼料用	2.4	2.8	2.7	▲ 0.7	▲ 1.1
輸出量	25.5	26.3	26.8	-	2.0
輸入量	3.7	2.9	3.0	▲ 0.3	4.5
期末在庫量	29.4	28.0	23.2	0.4	▲ 17.2
期末在庫率	53.0%	49.2%	40.3%	1.2	▲ 8.9

(参考)

収穫面積(百万ha)	16.03	15.13	14.87	-	▲ 1.7
単収(t/ha)	3.20	3.47	3.34	-	▲ 3.7

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(9 April 2021)

表 米国産小麦の作付意向面積の推移

(百万ヘクタール)

2019年	2020年	2021年	対前年度増加率(%)
18.41	17.95	18.76	4.5

資料：USDA「Prospective Planting」(2021.3.31)

表 米国の小麦輸出先国別輸出量(輸出検証高)

(万トン)

2021年3月			2021年1月～3月		
国名	検証高	シェア(%)	国名	累積検証高	シェア(%)
中国	33.8	14.9	メキシコ	93.4	15.9
メキシコ	30.5	13.4	日本	65.7	11.2
フィリピン	29.4	12.9	フィリピン	62.6	10.6
韓国	25.6	11.3	中国	60.5	10.3
バングラデシュ	17.5	7.7	韓国	52.8	9.0
その他	90.2	39.8	その他	253.9	43.1
合計	227.0	100.0	合計	588.9	100.0

注1. 3月の輸出検証高は、3月11、18、25、4月1日の合計値

注2. 累積輸出検証高は、2021年1月7日～4月1日の合計

資料：USDA Federal Grain Inspection Services Yearly Export Grain Totals (2021年4月9日)より作成。

< カナダ >

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook For Principal Field Crops」(2021.4.20)によれば、2020/21 年度の生産量は、前年度より 8.8 %増加の 35.2 百万トンの見込み。品種別には、デュラム小麦が、前年度に比べ 32%増加し 6.6 百万トン、普通小麦が、同 4.5%増加し 28.6 百万トンの見込み。

カナダ穀物委員会によれば、No1、No2 等級のデュラム小麦の平均タンパク質含有量は 13.8%で、デュラム小麦の 80%以上が NO2 等級以上に、また、No1、No2 等級の普通小麦(カナディアン・ウエスタン・レッド・スプリング：CWRS)の平均タンパク含有量は 13.3%で、普通小麦の 80%以上が No2 等級以上に格付けされている。

また、2021/22 年度の実産量は、前年度より 6.9%減少の 32.7 百万トンの見込みで、品種別には、デュラム小麦は 2020/21 年度に比べ 4.1%減少の 6.3 百万トン、普通小麦は同 7.6%減少の 26.4 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】AAFC によれば、2020/21 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、26.7 百万トンの見込み。内訳は、デュラム小麦が、欧州向け需要と好調な輸出から、0.1 百万トン上方修正され 5.7 百万トン、普通小麦が、ロシア産との競合から 0.1 百万トン下方修正され 21.0 百万トンの見込み。

また、2021/22 度の輸出量は、デュラム小麦が前月より 0.2 百万トン上方修正の 5.0 百万トン、普通小麦が前月より 0.1 百万トン上方修正の 19.2 百万トンの見込み。

USDA によれば、4 月 8 日時点で、カナダの輸出価格は 277 ドル/トンと、豪州等の主要輸出 6 ヶ国の中で最も高い水準(P4 図「輸出価格の推移」を参照)。

カナダ穀物委員会(Canadian Grain Commission)によれば、2021 年 2 月の輸出量は、普通小麦が 124.5 万トン、デュラム小麦が 45.7 万トン。輸出先国は、普通小麦が、バングラデシュ(11.8%)、ペルー(11.4%)、デュラム小麦はアルジェリア(35.0%)、イタリア(31.3%)の順。2020/21 年度(2020 年 8 月～2021 年 7 月)の 8 月から 2 月までの輸出量は普通小麦が 1,137.0 万トン、デュラム小麦が 341.4 万トンであった。

小麦－カナダ（春小麦を主に栽培）

(単位：百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21			
			予測値、() はAAFC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	32.4	32.7	35.2	(35.2)	-	7.7
消 費 量	9.2	9.3	9.9	(8.8)	-	6.9
うち飼料用	4.2	4.2	4.7	(4.0)	-	13.0
輸 出 量	24.4	24.6	27.0	(26.7)	-	9.6
輸 入 量	0.5	0.7	0.6	(0.1)	-	▲ 19.1
期末在庫量	6.0	5.5	4.3	(5.3)	-	▲ 21.3
期末在庫率	18.0%	16.2%	11.7%	(15.0%)	-	▲ 4.5

(参考)

収穫面積(百万ha)	9.88	9.66	10.02	(10.02)	-	3.7
単収(t/ha)	3.27	3.38	3.51	(3.51)	-	3.8

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 April 2021)
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(20 April 2021)

表 カナダ産普通小麦及びデュラム小麦の輸出相手国(輸出検証高、シェア)
2021年2月及び2020/21年度(2020年8月～2021年 7月)の8月～2月
(普通小麦)

	2021年2月			2020年8月～2021年2月		
	国名	輸出量 (万トン)	輸出量シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	輸出量シェア (%)
1	バングラデシュ	14.7	11.8	中国	158.4	13.9
2	ペルー	14.2	11.4	インドネシア	131.4	11.6
3	日本	14.2	11.4	日本	101.9	9.0
4	コロンビア	13.9	11.2	ペルー	99.6	8.8
5	インドネシア	11.2	9.0	コロンビア	84.0	7.4
6	その他	56.3	45.2	その他	561.7	49.4
計		124.5	100.0	計	1137.0	100.0

(デュラム小麦)

	2021年2月			2020年8月～2021年2月		
	国名	輸出量 (万トン)	輸出量シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	輸出量シェア (%)
1	アルジェリア	16.0	35.0	イタリア	108.5	31.8
2	イタリア	14.3	31.3	モロッコ	74.0	21.7
3	モロッコ	3.9	8.5	アルジェリア	36.2	10.6
4	リビア	3.0	6.6	チュニジア	26.1	7.6
5	チュニジア	2.7	5.9	トルコ	16.6	4.9
6	その他	5.8	12.7	その他	80.0	23.4
計		45.7	100.0	計	341.4	100.0

注1: Canadian Grain Commissionが認可したエレベーターから輸出された小麦(Licensed)のみのデータ。

注2 普通小麦の品種はNO.1-3 Canada Western Red Spring No.1 Canada Western Red Winter
No.2 Canada Eastern Red Spring No.2 Canada Eastern Oter、デュラムはCanada Western Amber Durum Others
資料: Canadian Grain Commission「Export of Canadian Grain and Wheat Flour」をもとに作成。

< 豪州 >

【生育・生産状況】USDAによれば、2020/21年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比117.1%増加の33.0百万トンの見込み。同年度は、QLD州では生育期間の大部分で、平年を下回る降水量により影響を受けたものの、多くの生産地では播種前と成熟期に十分な降雨に恵まれ生産量が伸び、生産量は史上最高となった。

一方、豪州農業資源経済科学局(ABARES)「Crop Report」(2021.2.16)によれば、同年度の生産量は前年12月予測から上方修正され、前年度比120%増の33.3百万トンと史上最高の見込み。

また、同「Agricultural commodities」(2021.3.2)によれば、2021/22年度の生産量は、播種時の土壌水分が十分とみられるものの、NSW州、VIC州で2020/21年度の高単収が平均並みに低下すると見られることから、25.0百万トンに減少すると見込まれている。例年であれば、5月から播種が開始される。

【貿易情報・その他】USDA「Grain World Markets and Trade」(2021.4.9)によれば、豪州産の小麦輸出価格は、アジア市場からの強い需要に支えられたものの、新穀が出回り始めたことから、3月5日時点の283ドル/トンから、266ドル/トン(4月7日時点)に低下した。主要輸出6か国のうち、豪州産の輸出価格はカナダに次いで2番目に高い水準となっている。

USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、22.0百万トンの見込み。

また、ABARES「Agricultural commodities」(2021.3.2)によれば、2020/21年度の輸出量は、前年度の倍以上の21.0百万トンと10年平均を上回り、2016/17年度以降最高となる見込み。干ばつとなった前年度まで、供給不足等により豪州産小麦価格が上昇し輸出が減少。その間、主要小麦輸入国でかつ豪州産の主要市場であるインドネシアでは、アルゼンチンや黒海地域がシェアを伸ばしたものの、2020/21年度は供給の大幅増加に伴う価格競争力の上昇で、豪州産がシェアを取り戻すと見られる。

小麦—豪州 (冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

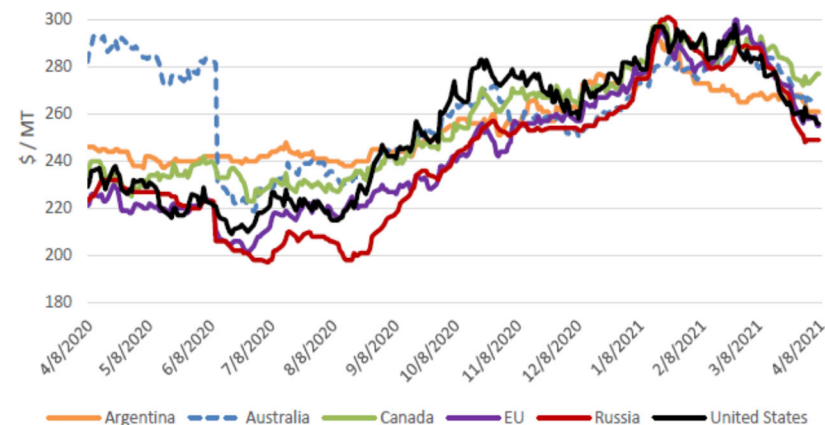
年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	17.6	15.2	33.0	(33.3)	-	117.1
消 費 量	9.2	8.5	8.5	(9.6)	-	-
うち飼料用	5.7	5.0	5.0	(5.9)	-	-
輸 出 量	9.0	9.1	22.0	(20.5)	-	140.7
輸 入 量	0.5	0.9	0.2	(0.5)	-	▲ 77.5
期末在庫量	4.4	2.9	5.6	(7.5)	-	93.1
期末在庫率	24.4%	16.4%	18.4%	(25.0%)	-	1.9

(参考)

収穫面積(百万ha)※	10.40	10.20	13.00	(13.0)	-	27.5
単収(t/ha)	1.69	1.49	2.54	(2.57)	-	70.5

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 April 2021)
IGC 「Grain Market Report」(25 March 2021)

図 小麦輸出主要6ヶ国の輸出価格の推移



資料: USDA「Grain:World Markets and Trade」(2021.4.9)

(※) NSW州: ニューサウスウェールズ州 WA州: ウェスタンオーストラリア州
QLD州: クイーンズランド州 SA州: サウスオーストラリア州
VIC州: ビクトリア州

< EU >

【生育・生産状況】EU委員会「EU Cereals Production Area and Yield」(2021.3.25)によれば、2020/21年度の生産量(EU27)は、前月予測から僅かに上方修正され、125.3百万トンの見込み。

また、2021/22年度の生産量は135.4百万トンと2020/21年度より8.1%上昇する見込み。品種別の生産量は、普通小麦が前年度に比べスペイン等で減少するもののフランス、ルーマニア、ブルガリア等で増加することから、前年度対比8.2%上昇の127.7百万トン、デュラム小麦もスペイン等で減少するものの、イタリア、フランス等で増加することから、同6.1%上昇の7.7百万トンとなる見込み。英国農業園芸開発公社(AHDB)「First 2021GB wheat production forecast」(2021.4.14)によれば、英国の2021/22年度の生産量は前年度に比べ4.9百万トン増加の14.6百万トンの見込み。

EU全体の生育状況は、3月末から気温が上昇し生育が進んだものの、4月上旬の気温の低下により、生殖生長期の小麦の一部が霜害を受けた。

フランスでは4月上旬に気温の低下により霜害を受けた。霜害の影響は、同国北部では分げつ期であったため限定的であった一方、南部では出穂期を迎えていたため被害が生じた。また、土壌水分は、北部で4月上旬に降雨に恵まれ回復したものの、南部で約2ヶ月間乾燥が続いており影響が懸念されている。

ドイツでは3月下旬からの気温の上昇で作物の生長が進み、4月上旬には降雨に恵まれ土壌水分量が回復した。

【貿易情報・その他】USDA「Grain:World Markets and Trade」(2021.4.9)によれば、EUの輸出価格は、2021年3月5日時点の292ドル/トンからロシアを僅かに上回る255ドル/トン(4月7日現在)へ低下した。また、2020/21年度の輸出量は、価格競争力があるため、前月予測から0.5百万トン上方修正され27.5百万トンとなる見込み。EU委員会によれば、2020年7月～2021年1月までの輸出量は、普通小麦が前年同期を15.1%下回る1,543.2万トン、デュラム小麦が同35.2%下回る185.3万トン。

小麦－EU (冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	136.6	154.3	135.6 (124.4)	▲ 0.2	▲ 12.1
消費量	121.1	122.5	117.5 (102.8)	▲ 1.0	▲ 4.1
うち飼料用	51.5	52.5	48.0 (40.0)	▲ 1.0	▲ 8.6
輸 出 量	23.3	38.4	27.5 (28.9)	0.5	▲ 28.4
輸 入 量	5.8	4.8	6.0 (5.3)	-	25.0
期末在庫量	15.9	14.1	10.7 (10.4)	0.1	▲ 24.1
期末在庫率	11.0%	8.8%	7.4% (7.9%)	0.1	▲ 1.4

(参考)

収穫面積(百万ha)	25.52	26.16	24.47 (22.76)	▲ 0.14	▲ 6.5
単収(t/ha)	5.35	5.90	5.54 (5.47)	0.02	▲ 6.1

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

USDA 「PS&D」(9 April 2021) 表内のデータはEU27+英国

IGC 「Grain Market Report」(25 March 2021) ()内はEU27ヶ国のデータ

表 2021/22年度のEU27国の収穫量・作付面積・単収予測 (上位8ヶ国)

普通小麦						
更新日時	収穫量 (百万トン)		作付面積 (百万ヘクタール)		単収(t/ha)	
	3月25日	前年度差	3月25日	前年度差	3月25日	前年度差
フランス	34.6	5.55	4.88	0.6	7.10	0.28
ドイツ	22.0	0.03	2.87	0.1	4.59	1.60
ポーランド	11.7	-0.41	2.49	0.0	5.07	1.14
ルーマニア	9.5	3.06	2.06	-0.1	5.86	0.46
スペイン	6.2	-0.97	1.71	0.1	7.00	-0.16
ブルガリア	5.6	1.01	1.11	-0.1	5.01	-0.39
ハンガリー	5.6	0.68	0.95	0.0	9.61	1.25
リトアニア	5.0	0.22	1.00	0.1	3.78	0.41
その他	27.5	0.51	4.46	0.1	6.17	2.19
合 計	127.7	9.67	21.53	0.8	5.93	0.23

デュラム小麦						
更新日時	収穫量 (百万トン)		作付面積 (百万ヘクタール)		単収(t/ha)	
	3月25日	前年度差	3月25日	前年度差	3月25日	前年度差
イタリア	4.2	0.3	1.28	0.06	3.31	0.10
フランス	1.4	0.1	0.25	-0.00	5.49	0.38
スペイン	0.8	-0.0	0.25	-0.00	3.07	-0.19
ギリシャ	0.7	0.1	0.24	-0.00	2.88	0.37
スロバキア	0.2	-0.0	0.04	0.00	4.43	-0.69
ドイツ	0.2	-0.0	0.03	-0.00	5.41	0.12
ハンガリー	0.1	0.0	0.03	-0.00	4.69	0.28
オーストリア	0.1	-0.0	0.02	0.00	4.57	-0.23
その他	0.1	0.0	0.03	0.00	3.10	-2.42
合 計	7.7	0.4	2.16	0.06	3.56	0.11

資料: 欧州委員会(EC)「EU Crops Market Observatory, "EU Cereals Production, Area, and Yield 3.25)」

< 中国 >

【生育・生産状況】中国糧油情報センター(2021.4.3)によれば、2020/21 年度の小麦の生産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 0.5%増の 134.2 百万トン。品種別には、冬小麦は 126.8 百万トン、春小麦は 7.4 百万トンの見込み。

中国中央气象台(2021.4.2)によれば、2021/22年度の冬小麦主要生産地の天候は大部分で気温が平年並みからやや高く、降水量も十分で冬小麦の生長に適していた。

冬小麦は、主要生産地北部の山西等では茎立ち～節間伸長期、安徽等では穂孕み期から出穂期、甘肅等では節間伸長期、穂孕み期に入った。また、南部の四川省等では開花期となり、一部は乳熟期となっている。

春小麦は、甘肅等で播種から出苗期で、東北地域では播種の準備が行われている。

また、全国の冬小麦の作柄は、一、二類苗の比率が22%、77%と、前年度同期の20%、79%に比べ一類苗は2ポイント上昇、二類苗は2ポイント低下した。

【貿易情報・その他】中国農産品供需形勢分析月報(2月)によれば、国内市場価格は、競売による小麦の出回りが春節後ピークを迎え、市場への供給が増加した。一方、需要面では、今年の春節時期、小麦粉の需要が少ないため、製粉企業の小麦在庫は充足しているが、まだ国内のトウモロコシ価格が小麦価格を大きく上回っているため、飼料メーカーの小麦需要が堅調で、小麦価格は高位にある。

中国糧油情報センターによれば、消費量は、中国国内とうもろこし価格の高騰により国内小麦価格がより割安となり、小麦の代替需要が予想を上回ったため、前月予測に比べ、飼料用途が 3.0 百万トン上方修正され、147.3 百万トンの見込み。

また、輸入量は前月予測から 3.0 百万トン上方修正され、10.0 百万トンの見込み。

中国海関統計によれば、2021 年 1 月から 2 月の小麦輸入量は前年同時期の約 4 倍の 247.3 万トンとなった。輸入先国は、豪州(38.8%)、カナダ(24.6%)、フランス(18.2%)、米国(13.8%)の順となっている。期末在庫量は、消費量の増加から前月予測から 5.0 百万トン下方修正され、145.4 百万トンの見込みで、前年度に比べ 8 年ぶりに減少した。

小麦—中国(冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	131.4	133.6	134.3	(134.3)	-	0.5
消費量	125.0	126.0	150.0	(136.0)	5.0	19.0
うち飼料用	20.0	19.0	40.0	(25.0)	5.0	110.5
輸 出 量	1.0	1.1	1.0	(1.2)	-	▲ 4.8
輸 入 量	3.2	5.4	10.5	(10.1)	-	95.2
期末在庫量	139.8	151.7	145.4	(138.2)	▲ 5.0	▲ 4.1
期末在庫率	110.9%	119.4%	96.3%	(100.7%)	▲ 6.7	▲ 23.1
(参考)						
収穫面積(百万ha)	24.27	23.73	23.38	(23.8)	-	▲ 1.5
単収(t/ha)	5.42	5.63	5.74	(5.46)	-	2.0

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 April 2021)
IGC 「Grain Market Report」(25 March 2021)

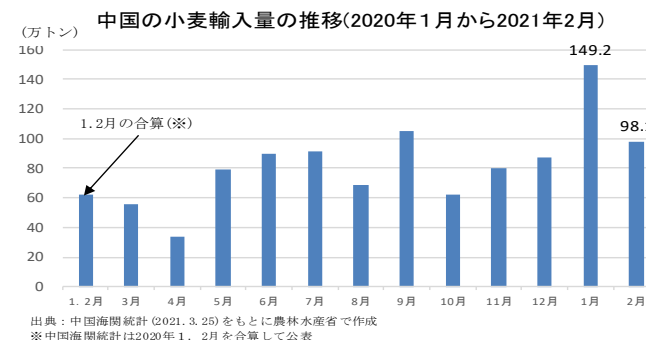


表 中国の小麦輸入量、輸入先国シェアの推移
(2019年1月～11月、2020年1月～11月)

	2020年1月～2020年2月			2021年1月～2021年2月		
	国名	輸入量 (万トン)	輸入量シェア (%)		輸入量 (万トン)	輸入量シェア (%)
1	フランス	29.1	46.9	豪州	95.9	38.8
2	豪州	16.6	26.7	カナダ	60.8	24.6
3	カザフスタン	6.8	11.0	フランス	44.9	18.2
4	リトアニア	6.5	10.5	米国	34.2	13.8
5	リトアニア	2.0	3.3	リトアニア	6.6	2.7
6	ロシア	1.0	1.6	カザフスタン	4.8	1.9
7	米国	0.0	0.0	ロシア	0.1	0.1
	計	62.0	100.0	計	247.3	100.0

出典: 中国海関統計(2021.3.25)をもとに農林水産省で作成

< ロシア >

【生育・生産状況】ロシア農業省によれば、2020/21 年度の冬小麦及び春小麦の収穫量(品質調整前)は、冬小麦が 63.2 百万トン、春小麦が 22.7 百万トンの 85.9 百万トン(2021 年 3 月 9 日時点)の見込み。

ロシア気象センターによれば、2021 年 3 月に、ロシア・ヨーロッパ部の北部地域で越冬期終盤を迎え、南部地域では冬小麦は生長を再開し一部で分けつ期に入った。また、同ヨーロッパ部の南部地域は概ね温暖で、大部分で平年を上回る降雨に恵まれた。

なお、ロシア農業省は、3 月 5 日現在、冬作物の 23.5%に生育不良が生じているとしたが、同月下旬、南部地域では大規模な播き直しは不要との見方を示した。

一方、ロシア・アジア部では農作物に影響を及ぼす気温の急激な低下もなく比較的温暖であり、越冬は問題無く進んだ。

また、2021/22 年度の春小麦の播種が開始された。播種予定面積の 12.68 百万ヘクタールの 0.6%にあたる 0.07 百万ヘクタールで播種が行われているが、前年度同期の 0.65 百万ヘクタールを下回っている。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2020/21 年度の輸出量は、輸出関税が賦課される 2 月 15 日前に輸出が集中し、予想よりも輸出が好調となったことから、前月予測から 0.5 百万トン上方修正され 39.5 百万トンとなる見込み。ロシアの輸出価格は依然として比較的価格競争力があり、輸出量も予測より落ち込まなかった。

現地情報会社によれば、その後 3 月下旬から 4 月上旬かけ、輸出関税賦課により輸出需要が低下した。そのため、ロシア産輸出価格は低下し、ロシア産は欧米産より安価となった。この輸出価格の低下に伴い国内の小麦価格も低下したものの、ロシア連邦統計局によれば、2021 年 3 月のロシアの消費者物価指数は、前年同月を 100 とすると、パン類が 100.6、穀粒及び豆類が 100.7、パスタが 100.9 と 2 月より上昇した。

なお、3 月以降の輸出減少により、算定方式が変わる 6 月以降に関税率が実質的に下がる可能性が高いと見て、6 月初めまで輸出業者は輸出を控えると見られている。

小麦ーロシア(主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	71.7	73.6	85.4 (85.4)	-	15.9
消費量	40.5	40.0	41.5 (42.9)	-	3.8
うち飼料用	18.0	17.0	18.0 (18.5)	-	5.9
輸出量	35.9	34.5	39.5 (38.9)	0.5	14.5
輸入量	0.5	0.3	0.5 (0.3)	-	51.5
期末在庫量	7.8	7.2	12.1 (12.8)	▲ 0.5	67.1
期末在庫率	10.2%	9.7%	14.9% (15.6%)	▲ 0.7	5.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	26.34	27.31	28.68 (28.7)	-	5.0
単収(t/ha)	2.72	2.70	2.98 (2.98)	-	10.4

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

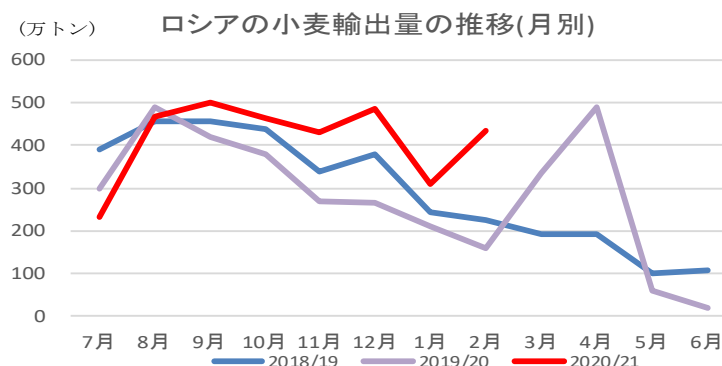


表 ロシアの小麦輸出先国(2021年2月、2020年7月～2021年2月)

	2021年2月			2020年7月～2021年2月		
	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)
1	エジプト	122.1	28.1	エジプト	744.5	22.4
2	トルコ	81.8	18.8	トルコ	618.5	18.6
3	イエメン	21.2	4.9	バングラデシュ	157.3	4.7
4	不明	21.2	4.9	パキスタン	157.0	4.7
5	アゼルバイジャン	17.2	4.0	アゼルバイジャン	136.6	4.1
6	その他	171.3	39.4	その他	1511.0	45.4
計		434.7	100.0		3324.9	100.0

資料: ロシア税関統計をもとに農林水産省で作成

(注) 2020/21年度は、2020年7月から2021年6月

2 とうもろこし

(1) 国際的なとうもろこし需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2020/21 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

- ・アルゼンチン等で下方修正も、パキスタン、EU等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

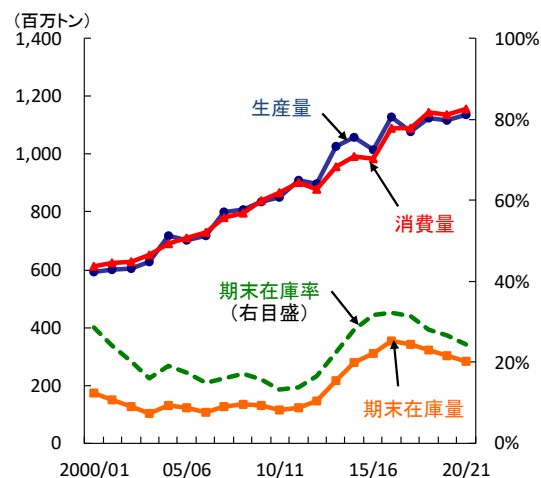
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

- ・アルゼンチン等で下方修正も、米国、ウクライナ等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

- ・ウクライナ等で下方修正も、米国等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↓



資料：USDA「PS&D」（2021.4.9）をもとに農林水産省にて作成

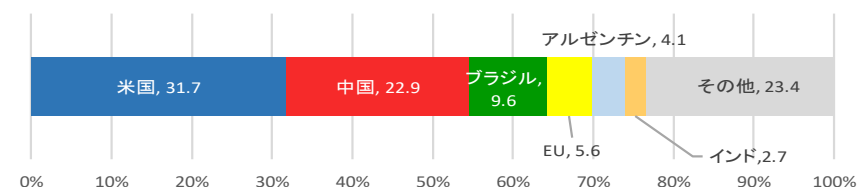
◎世界のとうもろこし需給

(単位：百万トン)

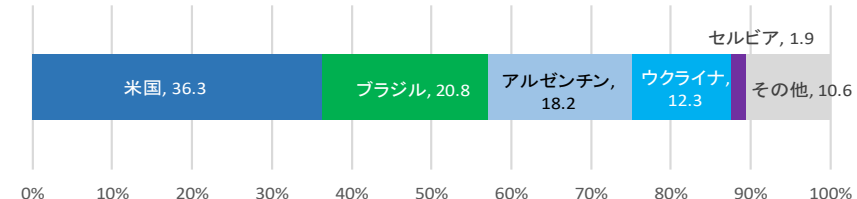
年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値	前月予測からの 変更	対前年度 増減率(%)
生産量	1,124.9	1,116.5	1,137.1	0.7	1.8
消費量	1,144.8	1,134.6	1,156.2	4.4	1.9
うち飼料用	703.9	714.4	731.3	3.0	2.4
輸出量	181.7	171.7	187.3	0.7	9.0
輸入量	164.4	165.4	180.0	0.0	8.8
期末在庫量	321.1	303.0	283.9	▲ 3.8	▲ 6.3
期末在庫率	28.0%	26.7%	24.6%	▲ 0.4	▲ 2.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」（9 April 2021）

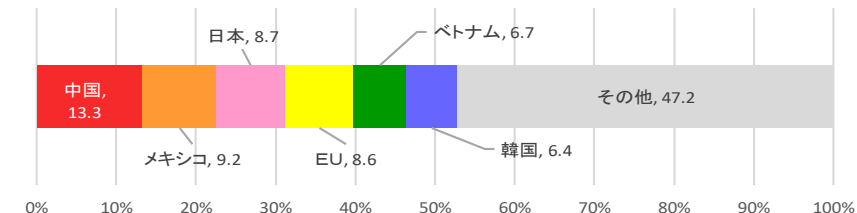
○ 2020/21 年度 世界のとうもろこしの生産量 (1,137.1 百万トン) (単位：%)



○ 2020/21 年度 世界のとうもろこしの輸出量 (187.3 百万トン)



○ 2020/21 年度 世界のとうもろこしの輸入量 (180.0 百万トン)



(2) 国別のとうもろこしの需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】3月末に米国農務省（USDA）から発表された作付意向面積調査によれば、2021/22年度の作付面積は36.9百万ヘクタールと前年度に比べ0.4%増の見込み。市場の事前予想を下回った。4月18日現在で作付け進捗率は8%と、前年度同期（6%）より進み、過去5年平均（8%）並みとなっている。

【需要動向】USDAによれば、2020/21年度の消費量は、3月のガソリン生産量の増加によるエタノール向け需要の上方修正、本年度の第2四半期の飼料用需要増加や家畜の飼養頭数が高水準なこと等による飼料用需要の上方修正により、前月予測から1.9百万トン上方修正されたものの、前年度より0.7%減の307.4百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、米国の穀物年度（10-9月）内のブラジルやウクライナの輸出の下方修正により、米国産が代替されるため、前月予測から1.9百万トン上方修正され、前年度より50.4%増の68.0百万トンと史上最高の見込み。中国の家畜の飼養頭数と食肉生産の増加により中国のとうもろこし輸入量が増加することに加え、中国の主要輸入元であるウクライナのとうもろこし生産・輸出量が高温乾燥により大幅に減少することが増加の背景。

なお、輸出検証高(2021年1月7日～4月1日)は、20.6百万トンであり、内訳は日本(4.1百万トン)、メキシコ(3.7百万トン)、中国(3.7百万トン)、韓国(1.6百万トン)の順である。

2020/21年度の期末在庫量は、消費量、輸出量とともに前月予測から上方修正されたことから前月予測から3.8百万トン下方修正され、前年度より29.6%減の34.3百万トンで、期末在庫率は9.2%と2013/14年度以来10%を下回った。

とうもろこし-米国

(単位: 百万トン)

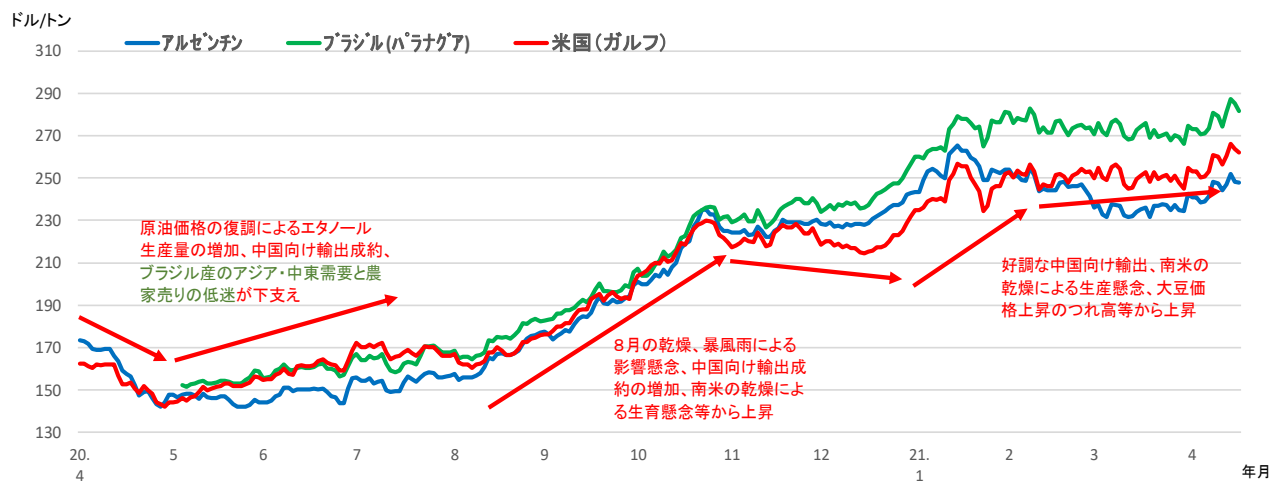
年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	364.3	346.0	360.3	-	4.1
消費量	310.5	309.5	307.4	1.9	▲ 0.7
うち飼料用	137.9	149.8	144.8	1.3	▲ 3.3
エタノール用等	136.6	123.4	126.4	0.6	2.4
輸 出 量	52.5	45.2	68.0	1.9	50.4
輸 入 量	0.7	1.1	0.6	-	▲ 39.6
期末在庫量	56.4	48.8	34.3	▲ 3.8	▲ 29.6
期末在庫率	15.5%	13.7%	9.2%	▲ 1.1	▲ 4.6

(参考)

収穫面積(百万ha)	32.89	32.92	33.37	-	1.4
単収(t/ha)	11.07	10.51	10.79	-	2.7

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 April 2021)

図: 米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格（FOB）の推移



資料: IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

< ブラジル >

【生育・生産状況】USDAによれば、2020/21年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より6.9%増の109.0百万トンとなり、史上最高の見込み。作付面積は、とうもろこしの国内・国際価格の上昇で、生産コスト増を十分カバーできるため、農家の作付け意欲を刺激し、拡大する見込み。ただし、大豆の収穫遅れに伴う冬とうもろこしの作付け遅れにより、5月の降雨状況によっては単収低下のリスクがある。

南部のリオグランデドスル州の早植えの夏とうもろこしは4月8日現在で75%が収穫済み。冬とうもろこしの主産地の一つである南部のパラナ州では冬とうもろこしの作付けが遅れていたものの、4月12日現在で99%が作付済み。開花率は11%で、さらなる降雨が必要な時期を迎える。ラニーニャ現象に伴う降雨のばらつきについて今後も注視が必要。

なお、ブラジル食料供給公社(CONAB)月例報告(2021.4.8)によれば、収穫中の2020/21年度の夏とうもろこしの生産量は、乾燥による作付け遅延と生育期の乾燥の影響もあり、特にパラナ州やサンタカタリーナ州など南部の州で単収が前年度より減少し、前年度比4.6%減の24.5百万トンの見込み。一方、大豆収穫後に作付け中の冬とうもろこしの生産量は作付面積の拡大により前年度比9.8%増の84.5百万トンが見込まれ、合計では前年度比6.2%増の109.0百万トンの見込み。(P.21 大豆ーブラジルのクロップカレンダー参照)。

【需給状況】USDAによれば、2020/21年度の消費量は、飼料用消費が前月予測から0.5百万トン上方修正され、前年度より2.9%増の70.5百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度より10.7%増の39.0百万トンの見込み。輸出シェアは世界第2位を維持。(図参照)。一方、輸入量は1.5百万トンの見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2021年1～3月の輸出量は3.5百万トンで、前年同期と比べ19%増となっている。内訳は、1位がエジプトで77万トン、2位がベトナムで51万トン、3位がイランで46万トンとなっている。

とうもろこしーブラジル

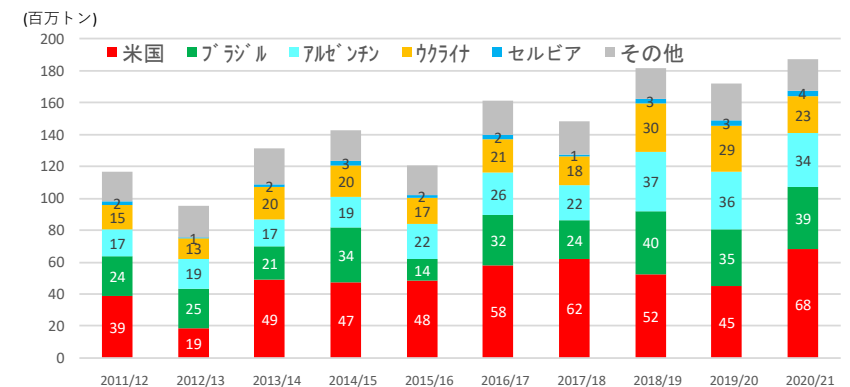
(大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが3/4を占め、夏とうもろこしは1/4)

(単位: 百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	101.0	102.0	109.0 (105.8)	-	6.9
消 費 量	67.0	68.5	70.5 (73.2)	0.5	2.9
うち飼料用	57.0	58.5	60.5 (54.3)	0.5	3.4
輸 出 量	39.7	35.2	39.0 (35.5)	-	10.7
輸 入 量	1.7	1.7	1.5 (1.3)	-	▲ 9.1
期末在庫量	5.3	5.2	6.2 (5.2)	▲ 0.1	19.1
期末在庫率	5.0%	5.0%	5.7% (4.8%)	▲ 0.1	0.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	17.50	18.50	19.70 (19.70)	-	6.5
単収(t/ha)	5.77	5.51	5.53 (5.37)	-	0.4

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 April 2021)
IGC 「Grain Market Report」(25 March 2021)

図：世界のとうもろこし輸出国の輸出量の推移



資料: USDA 「PS&D」 (2021.4.9) のデータをもとに農林水産省にて作成

< アルゼンチン >

【生育・生産状況】USDA によれば、2020/21 年度の生産量は、大部分の地域で生育期から充実期を通して土壌水分が不足したことから単収が下方修正されたことにより前月予測から 0.5 百万トン下方修正され、前年度より 7.8%減の 47.0 百万トンの見込み。

ブエノスアイレス穀物取引所（2021.4.22）によれば、収穫進捗率は 17%で、過去 5 年平均に比べ 11 ポイント遅れている。とうもろこし及び土壌の水分が一部で高く、収穫作業が活発化しない。

【需給状況】USDA によれば、2020/21 年度の消費量は、飼料用消費が生産量の下方修正に伴い前月予測から 0.5 百万トン下方修正され、前年度より 7.4%増の 14.5 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2020/21 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 6.2%減の 34.0 百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2021 年 1～2 月の輸出量は 2.8 百万トンで、前年同期より 21.9%減。内訳は、1 位がベトナム 60 万トン、2 位がエジプト 30 万トン、3 位がペルー 28 万トン。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019 年 12 月 14 日、輸出税を約 7%から 12%へ引き上げた。その後、アルゼンチン政府は、国内のとうもろこし価格の上昇から畜産向け飼料供給を確保するため、2020 年 12 月 30 日、2021 年 2 月 28 日までとうもろこし輸出を停止すると発表した。国内の農家団体等からの強い抗議行動を受けて 2021 年 1 月 12 日に前年 12 月末に発表した輸出停止措置を撤回した。輸出税 12%は継続している。

写真：北部サンタフェ州のとうもろこし圃場の収穫風景
(3月19日撮影)



とうもろこしーアルゼンチン

(単位：百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21		
			予測値、() はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	51.0	51.0	47.0 (52.0)	▲ 0.5	▲ 7.8
消 費 量	13.8	13.5	14.5 (21.2)	▲ 0.5	7.4
うち飼料用	9.7	9.5	10.5 (16.7)	▲ 0.5	10.5
輸 出 量	37.2	36.3	34.0 (32.0)	-	▲ 6.2
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	2.4	3.6	2.1 (3.5)	▲ 0.1	▲ 41.4
期末在庫率	4.6%	7.3%	4.4% (6.6%)	▲ 0.1	▲ 2.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	6.10	6.30	6.10 (7.40)	-	▲ 3.2
単収(t/ha)	8.36	8.10	7.70 (7.03)	▲ 0.09	▲ 4.9

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 April 2021)
IGC 「Grain Market Report」(25 March 2021)

< 中国 >

【生育・生産状況】USDAによれば、2020/21年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より0.0%減の260.7百万トンの見込み。なお、3月末時点で2021/22年度の春とうもろこしは、四川盆地で播種期から出苗期にある。

【需給状況】USDAによれば、2020/21年度の消費量は、前月予測から変更はなく、家畜の飼養頭数と食肉生産の増加から飼料用消費量が増加し、前年度より4.0%増の289.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2020/21年度の輸入量は、前月予測から変更はなく、前年度より215.8%増の24.0百万トンで史上最高の見込み。

中国の貿易統計によれば、2021年1～2月の輸入量は4.8百万トンで、前年同期の5.1倍。内訳は、米国産2.4百万トン（50%）、ウクライナ産2.4百万トン（49%）で、前年同期はウクライナ産が86%を占めたが、米国産の輸入が増加している。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報2月号」によると、2月の国内流通価格は、黒竜江等中国東北部の主要生産地域でのとうもろこし販売進捗は前年より速く、既に市場に供給できる農家在庫が不足し、2,920元／トンと上昇が継続。一方、米国からの輸出見込量が減少している一方で中国側の輸入需要は旺盛なため、外国産価格も高位にあり、内外価格差は縮小している。

とうもろこしー中国

(単位：百万トン)

年 度	2018/19	2019/20 (見込み)	2020/21			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	257.2	260.8	260.7 (260.7)	-	▲ 0.0	
消 費 量	274.0	278.0	289.0 (295.9)	-	4.0	
うち飼料用	191.0	193.0	206.0 (193.0)	-	6.7	
輸 出 量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	-	100.0	
輸 入 量	4.5	7.6	24.0 (25.0)	-	215.8	
期末在庫量	210.2	200.5	196.2 (181.6)	-	▲ 2.2	
期末在庫率	76.7%	72.1%	67.9% (61.4%)	-	▲ 4.3	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	42.13	41.28	41.26 (41.50)	-	▲ 0.0	
単収(t/ha)	6.10	6.32	6.32 (6.28)	-	-	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 April 2021)
IGC 「Grain Market Report」(25 March 2021)

図：中国におけるウクライナ・米国産とうもろこしの輸入状況

